

巻 頭 の こ と ば

令和7年度に執行いたしました本市行政事務について、その概要を報告いたします。

本市を取り巻く社会経済情勢は、少子高齢化や人口減少の進展に加え、物価高騰や深刻な人手不足など様々な課題に直面しております。このような状況の中、令和7年4月に、市民の皆様に信任をいただき、市政運営の3期目をスタートしました。本市の将来像である「住んで楽しいまち よなご」の具現化に向け、教育・子育て施策をはじめとする重点施策を着実に推進し、持続可能なまちづくりに取り組んでまいりました。

米子市まちづくりビジョンに基づく主な取組としては、まず、「教育の充実と子育てしやすいまちづくり」の推進に向け、本市初となる幼保小連携型施設（啓成小・東こども園）の運用を開始したほか、学校外の屋内温水プールを活用した泳力向上学習モデル事業や、全国から延べ1万人以上を迎えたインターハイ2競技（弓道・ウェイトリフティング）の開催など、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を育む環境整備に努めてまいりました。

次に、「交通基盤の充実と歩いて楽しいまちづくり」においては、コミュニティバス「みのりんバス」の運行や自動運転バスの実証運行など公共交通の充実を図るとともに、米子鬼太郎空港への台北便新規就航・ソウル便増便や東草市との姉妹都市提携30周年を契機として、インバウンド受入環境の整備や国際交流の推進に取り組んでまいりました。

さらに、開庁時間の試行的変更や「待たない窓口」「迷わない窓口」の実現に向けた受付番号発券システムを導入し、引き続き行政サービスの利便性向上と組織運営の最適化を進めております。

また、令和7年度は、旧米子市と旧淀江町の合併による新市発足から20周年という節目の年となりました。これを記念し、教育・文化・スポーツなど様々な分野で記念事業を実施し、市民の皆様と郷土への愛着を深め、本市ならではの豊かさを多くの人々が実感できる機会となりました。

今後も、これまで重ねてきた歴史を礎に、市民の皆様が住み続けたいと思えるまち、そして国内外から多くの人々に選ばれるまちを目指し、積極的に施策を展開してまいります。あわせて、鳥取県西部圏域はもとより、中海・宍道湖・大山圏域の中心都市として、広域連携を一層推進し、圏域全体の発展に努めてまいります。

市議会議員各位、並びに市民の皆様のご意見とご協力をいただきながら、引き続き市政運営にまい進する所存でございますので、どうか一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年8月

米子市長 伊 木 隆 司